

ご存じですか！文化財

70

「金道院の青石塔婆」

市指定有形文化財 昭和31年9月24日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



所在地 平永101-1

青石塔婆は、鎌倉時代から室町時代にかけて死者への追善供養や、生きているうちに自らの供養をする逆修供養などのために立てられた卒塔婆の一種で、板碑とも呼ばれています。青石塔婆は、荒川の上流域(長瀬の周辺)で産出する緑泥片岩(青石)を材料としています。

金道院にあるこの青石塔婆は、高さ260cm、幅61cm、厚さ10cmの加須地域では最も大きなもので、寺の北東にある「やなぎばし」という橋の床材として再利用されていました。そのため、表面の中央あたりに橋脚を受ける跡が丸く

削られ残っています。

表面上部には深く二条線が彫られています。身部を二重の枠線が囲み、上部には「イの3点」(三弁宝珠)が添えられ、荘厳体にした阿弥陀種子(キリク)が蓮座にのついています。中央下部には「弘安三年庚辰十二月」「時子尅敬白」と大書され、その両側には光明真言が刻まれています。弘安3(1280)年、今から735年前のものということが分かります。

青石塔婆のある金道院は、「高麗軍に対する西域防衛軍として出征し、弘安4年の元寇海戦の夜襲で名譽の戦死を遂げた明願寺氏の館跡」と言い伝えられており、この大きな青石塔婆と関連があるのでしょうか。

